



SENSHOJI
2020 YUKARI NEWSLETTER
since 1994

ゆかり通信

北海道千歳市清水町1-14 鶴寶山 千正寺

VOL. 273

TEL:0123-23-2442 FAX:0123-24-9883

令和 2 年 10 月 ホームページ <http://sensho-ji.net/> フェイスブック @Senshoji

KAKUHOZAN SENSHOJI

浄土真宗的「仏教語辞典」その14 **そ行・た行**

僧兵【そうへい】

比叡山などにいた武装した僧侶。莊園を守るために整備された。



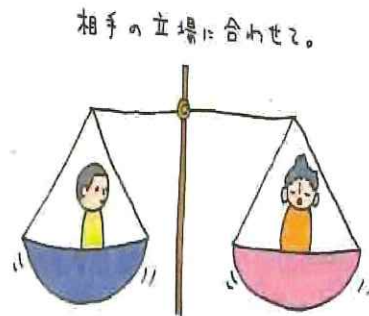
即身仏【そくしんぶつ】

僧侶が土中に入り、読経しながらそのまま 絶命しミイラになった状態を即身仏という。穀物を断ち、木の皮や木の実を食べることで脂肪を減らし骨と皮だけの身体にして、腐敗の原因となる菌を抑えるために、漆のお茶を飲み、嘔吐することでさらに体の水分を抜き、土中に入る準備をした。土中では鈴を鳴らしながら読経し、鳴り終わると絶命したと判断し1000日後に掘り出され、衣を着せられ安葬された。失敗も多かったとのこと。



対機説法【たいきせっぽう】

お釈迦さまは誰にでも同じ話を説くのではなく、その人の人生経験や協みに応じた説法を行っていた。病気の人にそれぞれに合うくすりを与えるようなもので、「応病与薬」ともいう。



太鼓楼【たいこうろう】

太鼓を設韻する建物のことをいう。時刻や法要の開始を知らせる役割を担っていた。西本願寺の太鼓楼には新撰組が居座ったこともあり、参拝者は新撰組の横暴な態度に怯えていたという。



大徳寺納豆【だいとくじなっとう】

通常の納豆と違い、発酵後の天日干しを繰り返し熟成させたもので、塩辛くて赤味噌に似た風味がある。お寺の保存食として作られてきた伝統食で、中国から鑑真が持ち込んだといわれている。それを大徳寺第47世の一休宗純が大徳寺に伝え、今も引き継がれている。お茶漬けにしてもウマく、赤ワインとも合う。



ダイブ【だいぶ】

法要時に足がしびれた僧侶が無理に立とうとして、思いっきり前にすっ飛んでいくこと。ときには念珠も一緒に前に飛ばしてしまい、這うようにして取りに行くさまも見る事ができる。それまでの法要の空気を一変させ、すべて持っていく大技。



大仏【だいぶつ】

大きな仏像。お釈迦さまの身長が1丈6尺（4.85m）あったという説話から、これより大きな仏像を大仏と呼んでいる。奈良の東大寺の大仏（盧遮那仏14.98m）、鎌倉の高徳院の大仏（阿弥陀如来11.312m）が有名。最も大きな大仏は茨城県牛久市の牛久大仏で台座も含めると高さ120mもある。

